

平成三年

皇紀
二千六百五十一年

新年賀 謹

万邦和楽

辛未の年頭にあたり

宗像大社
宮司 養父 守



平成三年の新春を迎え、謹んで皇室の弥栄と国家の隆昌を奉り、併せて氏子崇敬者皆様方の御繁栄と御健康を心より御祈り申し上げます。

昨年は天皇陛下御一代に一度の御大典の佳年であり、神社界はもとより、日本国民挙げて奉祝の機運の高まるとともに、即位の大札の諸祭事が古式に則り、厳肅に善く執り行われましたこととは誠に慶賀に堪えないところでありました。

昨秋十一月十二日、陛下は皇居正殿の間に於て、高御座に登られ、世界百五十八ヶ国の代表、国内各界代表約二千五百人を前に、朗々と即位のお言葉を宣言されました。中庭には古式に基いて美しい各種の飾が立ち並び、古裝束に威儀を

正した人々が、剣を佩き弓矢を執り、楯、鉦、雅楽器などを携えて奉仕し、その典雅、莊嚴の状は、さながら平安王朝の絵巻を目の当りにする思いでありました。

次いで十二月二十二日の夕刻から、二十三日の未明にかけて大嘗祭が執り行われました。皇居東御苑に建てられた大嘗宮は、皮つきの黒木の柱、屋根は茅葺き、壁も草で編んだ原始的な、清浄簡素な建物で、寒気厳し、灯火だけのほのかな光の殿内、陛下は御自ら、祭司として長時間に亘り、夜を徹して祭をおつとめされました。春に卜定された悠紀、今回は秋田県、主基(大分県)の両国から献上された新穀を皇祖神に捧げられ、陛下

も新穀を召し上がり、それによって皇祖神の神靈と一体になられ、名実共に天皇の御資格を身に付けられたのでした。

世界には古来より多くの王が君臨してきて、二千年に及ぶ伝統を今日まで守り、歩まされてきたといえます。我が皇室をおいて他に類例がありません。また、我が国は世界最先端の技術文明を築き、成熟した近代国家でありながら、同時に最古の儀礼や習俗を今日まで守り、歩まされてきたといえます。古くより調和し、渾然と成り、有益に機能している社会であり、このことは人類の奇蹟であるといわれています。

世界はこの現実を目を鼻張りで見て、その度執り行われたい世界最古の伝統的皇位継承儀式に讃嘆しています。

当大社では、十二日の即位の礼、二十三日の大嘗祭、当日、それぞれに奉祝祭を齎行し、多勢の氏子崇敬者の方々と共に御慶事を奉り、聖寿の万歳を御祈り致しましたが、特に大嘗祭奉祝祭には、当社だけに伝えられ



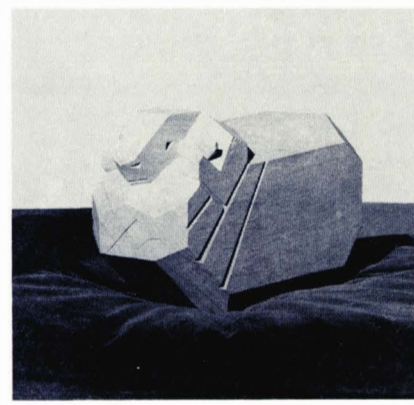
毎月十五日発行
発行所
宗像大社
〒811-35 福岡県宗像郡玄海町
電話 0940-62-1311(代)
定価 一年送料共 1000円



二月十一日には
国旗を掲げ
建国記念日を
祝いましょう

敬神生活の綱領

一、神の恵みと祖先の恩に感謝し、明き清きまこと
を以て祭祀にいそむること
二、世のため人のために奉仕し、神のみこともちとし
て世をつくり固め成すこと
三、大御心をいただきむつび和らぎ、国の隆昌と世
界の共存共栄とを祈ること



主基地方風俗舞を神前に奉納し、感激新たなるものがあがり、御承知のとおり、昭和三年、昭和天皇御即位の大札に際し、福岡県は初めて主基地方に卜定され、早良郡藤山町の石津家所有主が主基祭田に選ばれた光栄に浴しました。その古例により、福岡県の名勝を詠んだ風俗歌が作詞され、これに作曲、振り付けされた主基地方風俗舞が大嘗祭に引継ぎ行われた大嘗の宴で、宮内省雅楽部の舞員により舞われましたが、翌年、それ迄門外不出とされてきた前例を破って、この舞が特に当社に下賜され(主基齋田藤山村の氏神、横山神社が当大社の分社であった関係による)以来、今日迄地元青年団員により伝承されて参りました。

六十二年の間、昭和の御代と歩み共にしたこの風俗舞は、一時代の貴重な文化遺産であり、関係者の御協力により、未永く後世に伝えて行く所存であります。因みに歌詞は、うらわたり、生の松原いさぎと、栄えむ御代、色ぞ見えたる、等四首ですが、この度の主

基地方、大分県を詠んだ歌は、ゆきゆきて かへりみすれば田布の岳 波うつ峯や日ははるかなる。等四首です。

平成の御大典奉祝記念事業として、当大社では遠左内に神門を中心として、左右対称に守札授与所を新築致しました。本殿拝殿は国指定の重要文化財であり、境内は史蹟指定地でもあり、文化庁の許可を得て、神域景観との調和に充分に配慮し、併せて参拝者への便宜を図り、時代に即した機能性の授与所を、即位の礼の日日に完成致しました。

また、宗像大社氏子会が、御大典記念碑を兼ねた職基台、並びに大輪一對が、正面参道第一鳥居前に奉納されました。大輪には「聖君明德光(神威感卑高)」と御慶事に相応しい銘文が大書されています。

このほか、氏子崇敬者数名の方々から、それぞれ多額の浄財が寄せられ、また、辺津宮拝殿前、中津宮参道りの大嘗銭箱、中津宮参道りに石灯籠一對の奉納や、天の真奈井参道改修工事奉仕

等、熱誠溢るる御奉賛が相次ぎましたことは誠に感銘深く、衷心より感謝申しあげさせていただきます。

「神は人の敬により威を増し、人は神の徳により運を添ふ」という言葉がありますが、皆様方の御崇敬により、宗像大社の御神威、御神徳が愈々高く広く発揚されていきますことは誠に喜ばしく、心より御慶び申し上げます。

今年の正月松の内は、天候にも恵まれ、初詣の参拝者が多く、延々と車の渋滞が例年にも増して多く、御社頭は非常な賑わいをお見受けしております。

しかし乍ら、世界を震撼させる中東動乱の嵐により平成三年は激動の幕明けとなり、その名に希望を込めて、一日も早い平和の回復を心より御祈りして年頭の御挨拶と致します。

平成三年 1991

交通安全宗像大社の御神徳をたたえ奉りて

謹んで新年の御祝詞を申し上げます

福岡トヨタ自動車株式会社 取締役社長 金子 宜嗣 福岡市中央区渡辺通り1丁目12番9号 電話(代)761-3331	トヨタオート福岡株式会社 代表取締役 金野 宗次 福岡市博多区竹下2丁目2番31号 電話(代)411-5511
福岡トヨペット株式会社 取締役社長 久保田 圭哉 福岡市博多区東光1丁目6番13号 電話(代)411-1121	トヨタオート北九州株式会社 取締役社長 ト部 典明 北九州市八幡西区皇后崎14番6号 電話(代)642-2111
トヨタカローラ福岡株式会社 代表取締役社長 金子 宜嗣 福岡市中央区長浜2丁目1番5号 電話(代)712-7111	トヨタカローラ博多株式会社 代表取締役社長 久恒 鑛造 福岡市博多区豊2丁目3番50号 電話(代)441-2111
	トヨタビスタ福岡株式会社 取締役社長 喜多村 禎勇 福岡市中央区薬院1丁目5番8号 電話(代)714-6661

愛される車をめざして TOYOTA 福岡のトヨタグループ

輝ける初春に祈る

近年にない参拝者の波



参拝者のシルエットを浮かべ上らせていた。元旦午前零時、大太鼓の音が森閑とした境内に響き渡り、神輿並びに玄海町消防団役員により神門が重々しく開かれると、開扉を待ちかねていた参拝者ははたき先に神前へ殺到、瞬時に黒山の人だかりとなった。参拝者の波は途切れることなく、神前で一心に祈念する人々の拍手の音は、いつ迄も鳴りやまらなかった。

授与所は、新年のお守りや神札、縁起物の破魔矢や福迎え・干支二刀彫等を受け取る人々で一杯となり、特に昨年からの授与している神宝狛犬のミニチュア縁起物は、またたく間に授与された。

一方新年の年頭祈願祭も午前零時を期して行われ、拝殿では恒例の九州旅客鉄道(株)石井孝孝社長以下幹部役員三十数名が参列しての一番祈願祭、続いて(宗)像青年会議所中野和志理事長以下役員の新願が、又儀式殿でも家内安全・厄年祝・業務繁栄等の祈願祭が次々から次へと執り行われた。更に大駐車場正面の祈願殿では、大駐車場の交通安全祈願祭

平成三年正月元旦、小雨がそは降る中で新年の幕開けとなったが、本年の平穩と更なる飛躍を願う初詣の参拝者で、御社頭は大いに賑った。

平成二年師走大晦日午後五時、一年を締めくくる祭典大祓式・除夜祭を厳行、大神の御加護の下、大過なく一年を送ることが出来たことを感謝申し上げた。

平成二年は将に激動の年であった、今上陛下の御即位の礼・大嘗祭等我が国の本義を全世界に知らしめた皇統の諸儀、海外では東西両ドイツの統一・イラクのクウェート侵略等歴史に残る年であった。そのような一年もよいよ幕を



祭を厳行、本年一年の交通安全を祈る人々の祭典が終日執り行われた。

本年は例年にも増して参拝者が多く、大駐車場並びに隣接の町有地を借用して設けた臨時駐車場も終日満車状態、当大社へ通じる県道は上下線とも数キロに亘って渋滞が続き、三ヶ日は家族連れや若者等と観光バスでの参拝、四日からは会社関係の参拝が加わり六日の日曜日迄は昼夜を問わず参拝者が相次ぎ、境内は人波で埋め尽くされた。

このように平成三年の御社頭は、三万体制備した福



みくじが三日前中を終了する程の、近年にない賑いを見せ、参拝者への対応も昨年御大典奉祝記念事業の参拝が四日は会社関係の参拝が加わり六日の日曜日迄は昼夜を問わず参拝者が相次ぎ、境内は人波で埋め尽くされた。

このように平成三年の御社頭は、三万体制備した福

御 札

当大社恒例の大祓式厳行に当りましては、宗像市・郡内氏子各位並びに全国崇敬者の皆様より多数の人形をお寄せ戴き、お陰を以ちまして、祭典は天候にも恵まれ滞りなく、盛大裡に厳行致すことが出来ました。

ここに誌上を以ちまして謹んで御礼申し上げます。

平成三年一月吉日

宗 像 大 社
宮 司 養 父 守

献米袋配布並に取纏め御礼

平成二年度、宗像大社献米袋配布厳行に当たり、市・郡内氏子各位への献米袋配布並に取纏めにつきましては、年々未年初お忙しの中、御協賛を賜り厚く御礼申し上げます。

祭典は例年にもまして盛大厳肅に厳行致すことが出来ました。

ここに誌上をもちまして謹んで御礼申し上げます。

平成三年一月吉日

宗 像 大 社
宮 司 養 父 守
宗 像 大 社 子 会
会 長 河 野 幸 人

謹んで新年の御祝詞を申し上げます

平成三年 元旦

宗像大社責任役員会
宗像大社氏子総代会
宗像大社中両宮奉賛会

- | | |
|---|---|
| 宗像大社責任役員会
代表役員 養父 守
責任役員 出光 昭介
永倉 三郎
木本 元敬
河野 幸人
山本 三吾
占部真太郎
占部 文男
古賀 芳人 | 宗像大社氏子総代会
会長 河野 幸人
副会長 倉元 清彦
占部 文男
出光 太蔵
新海 伍郎
黒石 繁男
梶野 寛治
寺嶋 忠夫
宮本登志丸 |
|---|---|

謹んで新年の御祝詞を申し上げます

平成三年 元旦

宗 像 大 社 社 務 所

- | | |
|---|--|
| 宮 司 養 父 守
権 宜 太 田 可 愛
山 田 升 谷 勝 良
神 島 幸 雄 幸 雄
大 野 宗 康
権 彌 宜 石 橋 清 寿
東 堤 宏
高 田 正 秀
門 司 成 人
玉 木 正 之
渡 辺 秀 丸
杉 山 安 彦
藤 川 耕 一
宇 部 宮 勤
伊 藤 佳 和
兼 津 幹 之
学 芸 員 松 本 肇
巫 女 福 崎 かつ へ
井 土 博 江
中 野 京 恵
村 山 由 美 子
野 間 千 矢
石 松 哲 子
萩 野 和 美 | 巫 女 入 江 累 忠
白 石 泰 代
本 田 千 佳
麻 生 真 由 美
安 部 三 奈
副 島 順 子
力 丸 さ と り
小 田 み ど り
田 中 妙
備 員 渡 邊 和 夫
大 西 長 生
吉 武 隆 昭
花 田 清 己
嶺 千 鶴 子
広 橋 康 子
井 上 美 千 代
原 ふ か 子
占 部 子 有 子
堺 豊 三 郎
藤 川 宜 重
石 井 忠 志
河 窪 奈 津 子
松 崎 権 四 郎
橋 正 信
中 村 吾 郎
小 方 百 枝 |
|---|--|

平成三年 交通安全宗像大社の 御神徳をたたえ奉りて

謹んで新年の御祝詞を申し上げます

— 今年も安全運転を心掛けて下さい —

福岡日産自動車株式会社
取締役社長 有 吉 龍 健
福岡市博多区千代1丁目21番37号
電話 (代) 092-633-5523

福岡日産モーター株式会社
取締役社長 長 崎 久 吉
福岡市博多区東比恵2丁目14-33
電話 (代) 092-441-2323

北九州日産モーター株式会社
取締役社長 菊 竹 保 平
北九州市八幡西区穴生3丁目10番24号
電話 (代) 093-621-2136

日産サニー福岡販売株式会社
代表取締役社長 小 田 切 忠 夫
福岡市博多区半道橋1丁目9番10号
電話 (代) 092-411-4132

日産プリンス福岡販売株式会社
取締役社長 三 好 久 夫
福岡市中央区平尾3丁目5-3
電話 (代) 092-531-9561

日産ディーゼル福岡販売株式会社
取締役社長 中 堂 廣
福岡市東区多の津1丁目39番4号
電話 (代) 092-629-1831

師走の神事

古式祭・鎮火祭齋行

例年であれば寒気の厳しい中齋行される当大社恒例の古式祭が、暖冬の為、それに延命招福を祈念して齋行



古式祭は約八百年の伝統を誇り、地元氏子の奉仕による、その年後の取極感謝祭で、神前に九年母・菱餅で調製した「お菓子」と江口の浜よりあがる海草「バサモ」と大立で和えた、特殊神饌をお供えし、豊かな稔りを感謝していただいた神恩に感謝すると共に、祭典後に地元田島の氏子の方達が「お座」を催し、神人相嘗の儀を執り行った。この御座に参列し、御膳をいただくことは、「延命長寿」につながるというわけており、古来より縁起のよい習わしとして伝承されている。

このお座は、地元氏子総代並びに田島の当番班が奉仕、地元総代は一週間前から乗箸、特殊神饌の調製、又当番の上殿班の人々は前日より泊り込みでお膳の調理、膳を奉仕、この伝統ある古式祭を譲り受け継いでいる。このお座を待望している氏子の方も多く、一番座に参加しようと、一時間前位に参列された参列者も多かった。

又同日午前10時、鎮火祭齋行。この祭典は、「はしす」の祭と称され、古来下部等が火災を防止するため、京城の四隅の道上で火を鎮めて点火、ひきこもって水を振り注ぎ、赤土を振りまき、その上より川葉で覆い鎮火の儀式が古式に則り執り行われた。

祭典には、宗像地区市町村長、宗像警察署長、宗像地区消防本部各々、消防団長等関係者多数が参列し、迦具土神の荒びを鎮め、その災を受けることなく、新年を迎えることができるよう祈念して、祭典は滞りなく終了した。

害にもあわず、日本人の主食である稲を始めとする五穀の豊穡を感謝して祝詞を奏上、続いて古歌、千早振、第一宮(第一宮・第三宮)ノ木綿袴、掛ケテノ後は楽シカリケリを奉唱、玉串拝礼を行い滞り無く終了した。



正月十三日 日本海運連代表取締役社長高須徹明氏・堀江船舶堀江宏昭氏外一名参拝
正月十四日 職員会議
正月十五日 古式祭・鎮火祭
テレビ東京沖ノ島出土神宝取材に付作家北方謙三氏外来社
正月十六日 テレビ東京沖ノ島取材作家北方謙三氏外渡島
正月十八日 支洋福岡ライオンズクラブ境内清掃奉仕
正月十九日 松尾神社祭
正月二十日 松尾神社祭
熊本市立美術館有本氏神宝返却に付来社
出光タンカー・オルフェス・エイシア・宗像大神鎮座祭、養父宮司外神職二名出向奉仕
正月二十一日 出光タンカー・オルフェス・エイシア・宗像大神鎮座祭、養父宮司外神職二名出向奉仕
正月二十二日 天長祭
国際ロータリー第二六八地区分パナ・深川純一氏外一名来社
正月二十六日 天皇陛下御即位奉祝福岡県民の集い、於福岡国際センター、宮司以下神職五名・氏子総代四十名参加
正月二十八日 若小牧東部石油備蓄防炎環境室長山本昌氏参拝
正月二十九日 地元氏子・協力至月祭諸準備奉仕
正月三十一日 大祝式・除夜祭

出光タンカー
オルフェス・エイシア進水

航海の安全を願い宗像大神を奉斎



去る平成二年十二月二十日、石川島播磨重工業株式会社第一工場に於て、出光タンカー株式会社・モスタンカー・オルフェス・エイシア(総重量五八〇〇〇吨)の竣工引渡式が厳粛に齋行された。

十二月十九日、竣工奉祝祭に先立ち、午後三時より同船アリソン内に当大社の御祭神を奉斎する。宗像大神鎮座祭が執り行われ、翌二十日に同鎮座奉祝祭が厳かに齋行された。



十二月一日 月次祭
出光産物専務取締役 麻生和正氏、同店主室 教育研修二期同窓生井上好昭氏外十八名参拝
宗像大社文化財を守る会 解散式
十二月五日 芦屋町教育委員西村強三氏来社
十二月十六日 正月祭関係四者会議
法政大学外間ゼミ二行十名来社
十二月七日 心字池清掃宗像淡水養魚組合・柳大竹組奉仕
RKDBテレビ正月祭準備機取材
十二月八日 出光産物(株)宗像青年会議所歴代理事長会議
十二月八日 出光産物福岡支店総務課長橋本敦男氏外来社

社務日誌抄

十二月十三日 日本海運連代表取締役社長高須徹明氏・堀江船舶堀江宏昭氏外一名参拝
正月十四日 職員会議
正月十五日 古式祭・鎮火祭
テレビ東京沖ノ島出土神宝取材に付作家北方謙三氏外来社
正月十六日 テレビ東京沖ノ島取材作家北方謙三氏外渡島
正月十八日 支洋福岡ライオンズクラブ境内清掃奉仕
正月十九日 松尾神社祭
正月二十日 松尾神社祭
熊本市立美術館有本氏神宝返却に付来社
出光タンカー・オルフェス・エイシア・宗像大神鎮座祭、養父宮司外神職二名出向奉仕
正月二十一日 出光タンカー・オルフェス・エイシア・宗像大神鎮座祭、養父宮司外神職二名出向奉仕
正月二十二日 天長祭
国際ロータリー第二六八地区分パナ・深川純一氏外一名来社
正月二十六日 天皇陛下御即位奉祝福岡県民の集い、於福岡国際センター、宮司以下神職五名・氏子総代四十名参加
正月二十八日 若小牧東部石油備蓄防炎環境室長山本昌氏参拝
正月二十九日 地元氏子・協力至月祭諸準備奉仕
正月三十一日 大祝式・除夜祭

交通安全宗像大社の御神徳をたたえ奉りて
謹んで新年の御祝詞を申し上げます
九州三菱自動車販売株式会社
福岡日野自動車株式会社
福岡ダイハツ販売株式会社
九州スズキ販売株式会社

宗像大社歌会
俳句作品集(三四)

第三五五回 宗像大社歌会詠草
中村 吾郎 選
毎月末日 〆切

藤 沢 井上 玄洋
仰き見る秋空高し姫百合の
塔(沖繩にて)

若 松 井手 清隆
雲に暮れ雲に由布明け冬に
入る

福 間 森 清
夕風の落葉の音の転がりぬ

福 間 広渡一寿軒
補聴器の調子は合わず師走
風

名古屋 小田 喜一
徑の辺に手折るに惜しき野
菊咲く

名古屋 小田 留子
講を揺る園児の軍手大きく
て

福岡中央 力丸 玄風
禪僧の句碑に落葉の音響る
る

日の里 花田いつ枝
冬浜に柄穴もある破船片
い

田 熊 安部 ゆき
街路樹の一筋の道枯れま
い

津屋崎 井浦 良介
聖樹灯る平成の時刻表

田 熊 力丸 一郎
俵は曾孫の酌で飲むお屠蘇



田 熊 鷲頭かつ代
医師となり五年目にして今
日会へる孫のポケットベル
が鳴り出す
〔評〕「ポケットベル」の把
握がさすがに鋭い。三句ま
での記述も調よく整って
いてそつがない。

八幡西 川崎 ウラ
菊花展紅白幕に囲まれて朝
の日に輝る賞の立札
〔評〕初歩的な感じではあ
るが新鮮だ。どなたが育て
られた菊花であらうか、賞
の立札に着眼して美事

武 丸 中村さつき
生垣の山茶花の花咲き初め
て二羽の目白のをりをりに
来る
〔評〕待ちに待った山茶花
の開花に目白が来る。作者
の喜びは二重にふくらむ。
気持の通った素直な歌

香 椎 桜井 ツ子
明け方の寂かなるとき眼を
とちてけふ一番の鳥のこゑ
を待つ

自由ヶ丘 細川 絹子
夕暮れの街中走る車より肉
つきのよき豚の鼻見ゆ

東 郷 藤崎 辰子
黄と黒の段模様もつ女郎蜘蛛
蜘蛛のひかりの中に果を張
る

福 間 清原 絹代
通り雨するを待ちて軒下
の洗濯物を天日にさらす

大井台 梯 敷子
白無垢に包まれし娘よ幸あ
れと匂うが如き清楚に見入
る

吉 留 白木うめ
習はしはわれにて終らむ名
月に供へし初摺りの唐辛蒸
かす

日の里 後藤 君代
木の实散りはしり根のあら
き産土の静寂を身にきく一
月七日

八幡西 山田アヤ子
我が腕に地蔵の如き顔をし
て時に笑み見せ幼児ぬむる
福 間 広渡一寿軒
水光る枯葦原にて歳越せし
鷺羽び立ちぬ初日に向いて
須 恵 馬場 ヤマ
目覚れば牛乳配達箱の音
寒き朝あさぞつらからむ

名古屋 小田 留子
しまい置く母の形見の留袖
は色あせたけれどなお捨て
難し

田 久 立花 勇雄
毛筆で今年も賀状を書き終
へぬ生の証しと思ひ頑張る
八幡東 江口 妙子
渡り来し百舌の高鳴に目覚
むれば晴れたる秋日心明る
む

大 島 目原 節子
早敷や長き猛猛に耐へてこ
し崖の野菊の花かやけり
徳 重 石松や寿子
室の灯に入り来し石びたき
を放ちしは幾年前ぞ今年も
来たり

宮 田 片山 朔子
冬の陽を浴びつゆにいそし
みて更なる節重ねゆく日々
河 東 薄 かほる
なさぬ娘にまどひるましし
日も遠し母すこやかに喜寿
を迎へぬ

八幡東 大塩ミヤ子
久々に来たりし友と薩摩薯
美味しと食みて戦後を語る

池 田 小田 イセ
朝明けの霧重々し白雲の浮
かべる見つつ身を固くをり
鐘 崎 安永 久子
青信号見るかに前を渡りゆ
く大はとまりし吾車の前を
大 島 河野 英子
即位の礼パレード樽酒餅ま
きと小さき島内賑ひの声

小倉北 横原 静子
紅葉もすすみし森の枝間縫
ひ竹音々し大空をつく

宗像大社一ヶ年祭事表

一月一日	歳旦祭
一月二日	新年祭
一月三日	元始祭
一月十三日	献米奉告祭
一月十五日	成人祭
二月三日	節分祭
二月十一日	建国祭
三月十九日	松尾神社祭
三月二十一日	皇霊殿遙拝式
四月一・二日	春季大祭
四月二日	宗像護国神社祭
四月二十九日	沖・中両宮春季大祭
五月五日	五月祭・浜宮祭
五月二十七日	沖津宮現地大祭
七月十五日	祇園祭
七月三十一日	大祓式並夏越祭
八月七日	中津宮七夕祭
八月十五日	護国神社戦没者追悼祭
九月一日	千灯明
九月二十三日	皇霊殿遙拝式
十月一日	海上神幸「みあれ祭」
十月一・三日	秋季大祭「田島放生会」
十月三日	宗像護国神社祭
十月十七日	表千家々元献茶祭
十月二十二日	沖・中両宮秋季大祭
十一月三日	明治祭
十一月十五日	七五三祭
十一月二十三日	新嘗祭
十二月十五日	古式祭並鎮火祭
十二月十九日	松尾神社祭
十二月二十三日	天長祭
十二月三十一日	大祓式並除夜祭
毎月一日	月次祭
毎月十五日	月次祭

賀正

松尚開発株式会社
福岡国際カントリークラブ
池と赤松の三十六ホール
福岡県宗像市大字朝町
電話〇九四〇三三三四四代

節分祭ご案内

新春を迎え、貴家益々、御清栄の段慶賀に存じま
す。
めで、当大社恒例の節分祭を左記の如く肅行致しま
すので御参拝下さいますよう御案内申し上げます。
記
一、日時 平成三年二月三日 午前十時
一、会場 当大社祈願殿
平成三年二月吉日
宗像大社社務所
各位

賀正

玄界灘を望む風光明媚な
格調高いシーサイド・コース
西日本開発株式会社
玄海ゴルフクラブ
福岡県宗像郡玄海町
電話〇九四〇六二二三三三代

新年おめでとうございます

〇玄海国定公園の中心……風光明媚……生魚料理……宗像大社からバス五分……神湊旅館組合

あ	あけぼの庄	電話〇九四〇六二二二六番
魚	魚屋旅館	電話〇九四〇六二二二二番
み	みなと庄	電話〇九四〇六二二二五番
玄	玄海旅館	電話〇九四〇六二二〇〇番
高	高嘉旅館	電話〇九四〇六二二二二番
ニ	ニュー千鳥庄	電話〇九四〇六二二〇六八番
大	大島屋旅館	電話〇九四〇六二二〇五五番
松	松風荘	電話〇九四〇六二二〇二〇番
泉	泉館旅館	電話〇九四〇六二二〇三五番
魚	魚庄	電話〇九四〇六二二〇三五番
川	川口屋旅館	電話〇九四〇六二二〇四八番
は	はま荘	電話〇九四〇六二二〇五〇番
神	神湊スカイホテル	電話〇九四〇六二二〇三八〇番

